**基本情報**

時間割コード／Course Code　　　　　　 開講区分(開講学期)／Semester　秋冬学期

曜日・時間／Day and Period　木4

開講科目名／Course Name (Japanese)　経営者と語るリーダーシップ

教室／Room 国際公共政策研究科棟　2F　講義シアター

開講言語／Language of the Course　日本語

**詳細情報**

**授業の目的と概要／Course Objective**

阪大OBらの協力により、企業のトップをゲストに招き、チャンスもリスクも国境を越える時代のなかで、企業人としてのリーダーシップのあり方や奥義を、事業や経営に携わった体験をもとに、語りかけてもらいます。

一方的な講義を避け、質疑を通じた対話が成立するように、学生が企業および教員と協力しながら授業を創ります。随時若手社員との懇談の機会も設けられるので、会社や就職の実際についての質問もできます。

この授業の受講者は、授業をチームで運営することによって、リーダーとしての心と体の動かし方や責任を体得します。授業当日のゲストスピーカー紹介、謝辞、ファシリテーター、マイク回し、写真撮影や機材の操作は、すべて授業を受講する学生が担当します。学生主体の授業です。授業を受けるのではなく授業をつくる準備をしてきてください。

授業形式は基本的に講義40分+質疑応答40分です。ゲストスピーカーによっては、1つまたは2つ以上の課題を出して議論する方法やグループディスカッションも取り入れる場合があります。

受講生による毎回のゲストや授業運営へのフィードバック、振り返りによって、主体的に考え失敗から学ぶ機会をできるだけ多く設けます。

（受講理由書）シラバスを熟読して、なぜこの授業を受講したいかを記載した受講理由書をメールで提出して下さい。締切：提出は早ければ早いほどよいですが、最終締め切りは１０月末日とします。形式：A4用紙一枚以内(Word ポイント11)とし、ファイルのヘッダーに提出日 氏名 学番 メールアドレスを表記すること。メールは<glp@osipp.osaka-u.ac.jp>宛、必ず表題に「2019経営者と語るリーダーシップ(受講者名)」を記載すること。

（ゲストおよび授業日程）
ゲストスピーカー・授業日程に関しましては決定次第KOAN及びHPに掲載します。

昨年度は、株式会社エクス代表取締役社長　抱厚志様、住友林業株式会社取締役専務執行役員　佐藤建様、第一三共株式会社代表取締役会長兼CEO　中山譲治様、アクセンチュア株式会社取締役相談役　程近智様、株式会社パソナグループ代表取締役・グループ代表　南部靖之様、伊藤忠商事株式会社会長 小林栄三様、三井住友海上火災保険株式会社常務執行役員　川手　環　様、住友化学株式会社代表取締役専務執行役員　西本麗様、三井住友信託銀行株式会社取締役会長　常陰均様がご登壇されました。下記URLの授業日程をご覧下さい。（http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/keieisha.html）
（受講生の感想）

・授業全体を見るということに関して、授業担当になっていない回では、質疑応答の流れを見ながら質問するようにした。質問が途切れない場合は問題ないが、途切れてしまうとゲストの方の話すモチベーションや全体の盛り上がりを欠くことになるので、質問が途切れがちになる後半に温存しておこうという意識だった。しかし、質問自体がいいものであれば、それをきっかけに議論が展開され盛り上がるので、ゲストの方々から話を引き出すことができる質問は何なのかを考えることができればよかった。

・南部様は「世界を変える、それは自分にしかできないことだと思い込むことが重要」とおっしゃっていた。この、志のブレなさが人を惹きつけ、乗り越えなければならない高い壁をも楽しくさせる重要な要素なのではないかと考えるようになった。

（聴講歓迎します）
お互いに名前のわかる対話を可能とするために、聴講は事前申込にて受付けます。
申込先：glp@osipp.osaka-u.ac.jp

※昨年度の授業日程は以下のURLにて閲覧可能です。
http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/keieisha.html

**学習目標／Learning Goals**

・本物のビジネスリーダーの話を傾聴し、観察し、共に語らうことによって、リーダーシップについて、本では学べない知識と教訓を身につけることができます。
・授業を自ら運営することによって、リーダーとしての心と体の動かし方や責任や信頼について、具体的に理解できます。

**特記事項／Special Note**

・この授業はグローバルリーダーシップ・プログラムの一部です。http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/leader/index.html. GLPで開講する科目を続けて受講することで、リーダーシップをよりよく理解し、身につけることができます。春夏学期の「実践グローバルリーダーシップ」はベンチャーや公共政策分野のリーダーから学びます。秋冬学期水曜6限の「リーダーシップを考える」は、セミナー形式でディスカッションや授業を創ることに重点を置いています。

**授業計画／Class Plan**

第1回　　オリエンテーション

【内容】アイスブレーキング／グループ分け。授業日程の説明と質疑応答。

第2回　　 模擬授業1

【内容】学生によるアイスブレーキング／グループ分け。担当教員がゲストスピーカー役となり、リーダーシップとはアクションの集合であることとアクションは練習で身につくことを講義とディスカッションで学ぶと同時に、リーダーシップの練習として授業運営のためのスキルを学ぶ。ファシリテーション、機器操作、ホワイトボーダー、マイク回しなどの役割の意味を学ぶ。第1回自己評価シート配信。

第3回　　 授業運営スキル研修

【内容】今後の授業運営において必要となる、メール作成をはじめとしたコミュニケーションの手法を学ぶ。前回授業で練習したスキルを実践しながら、実際に授業を運営してみる。第5回以降のゲストを招いた授業の運営計画を立案し準備を行う。第1回自己評価シート提出。

第4回　　模擬授業2

【内容】担当教員がゲストスピーカー役となり、リーダーシップにまつわる模擬授業を行う。次回以降のゲストを招いた授業を想定した授業運営の練習を行い、今後に向けた改善点や留意点などを共有する。

第5回　　 講師1講義

【内容】講師1の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第6回　　 講師2講義：

【内容】講師2の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第7回　　講師3講義：

【内容】講師3の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。第2回自己評価シート・第1回相互評価シート配信。

第8回　　 講師4講義：

【内容】講師4の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。第2回自己評価シート・第1回相互評価シート提出。

第9回　 中間振り返りと授業計画

【内容】今までの授業の振り返りを行い、改善をはかる。

第10回　 講師5講義：

【内容】講師5の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第11回　 講師6講義：

【内容】講師6の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第12回　 講師7講義：

【内容】講師7の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。

第13回　講師8講義：

【内容】講師8の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。第3回自己評価シート・第2回相互評価シート配信。

第14回　 講師9講義：

【内容】講師9の40分講義に基づく質疑応答とディスカッションを行う。第3回自己評価シート・第2回相互評価シート提出。

第15回　 最終プレゼン

【内容】有志学生が授業での学びについてプレゼンをし、ディスカッションする。

第16回　 意見交換会（第16回授業終了後）16：30～18：30　カフェテリア「らふぉれ」などにて

【内容】ゲストスピーカーと直接交流することで、生のリーダーシップを肌で感じる。

**授業形態／Type of Class**講義科目

**授業外における学習／Independent Study Outside of Class**

学習効果を高めるため、グループによる事前の準備、事後の反省と受講者による予習が求められます。
この授業の応用として、理論と仮説検証に重点をおいた「リーダーシップを考える」が開講されます。さらなる発展を目指してください。

**教科書・教材／Textbooks**

第１回授業で、「GLP共通テキスト」を配布します。

**参考文献／Reference**

以下の他は、講義中に指示する。

野村美明ブログ　http://nomurakn.blogspot.jp/　＝過去の授業の教材や参考資料を掲載しています。「リーダーシップ」で検索してみてください。

マーティ・リンスキー,ロナルド・A・ハイフェッツ/竹中平蔵訳『最前線のリーダーシップ』（ファーストプレス 2007年)（原著Ronald A.Heifetz "Leadership on the Line"(Harvard Business School Press, 2002)＝共通テキストが引用している本です。

『リーダー・パワー』ジョセフ・S・ナイ（日本経済新聞出版社2008 年）（原著Joseph S. Nye, Jr., The Powers to Lead, Oxford, 2008)＝共通テキストが引用している本です。

シャロン・ダロッツ・パークス／中瀬英樹訳『リーダーシップは教えられる』（ランダムハウス講談社、2007年）（原著Sharon Daloz Parks, Leadership Can Be Taught, Harvard Business School Press, 2005).

堀公俊『ワークショップ入門』日経文庫　2008年。プログラムデザインやファシリテーションスキルが学べます。

**成績評価／Grading Policy**

1. 受講理由書，②平常点（行動の適切さ＋発言内容＋振り返りシート＋自己評価＋相互評価），③学期末レポートで総合的に評価します。

・受講理由書の早期提出は高く評価しますが、最終締め切りは10月末日です。

・受講理由書と学期末レポート（総合振り返り）の２つを提出することによって、受講前後で自分自身にどのような変化が生じたのかを実感できます。

・無断欠席した者は評価の対象としません。無断で遅刻・早退した場合も同様とします。

・時間厳守や立ち居振る舞いなど、ビジネスパーソンとしてのマナーを身につけられるかも評価の対象です。

**受講生へのメッセージ／Messages to Prospective Students**

授業目的に共感し、対話型授業と協働作業に積極的に参加する学生を望みます。本物から学びましょう。

**授業担当教員**

松行輝昌 tma@uic.osaka-u.ac.jp